

# 初出場初優勝

## エージシュートで決めた

2オーバー 74

本田 久直（志摩シーサイド）



ピンクの勝負服でまた勝った。今年8月、本田は雲仙ゴルフ場（長崎県雲仙市）であった2日間競技の「第70回記念雲仙国際ゴルフ大会」に出場し、通算151のスコアで優勝した。その時のウェアが今回と同じピンク。「同じ柄の紺も持っているけど、これで」と臨んだ結果が、80歳になって初出場の今大会でいきなりチャンピオンである。

ピンクのご利益もあったかもしれないが、安定したショットが勝利へ導いた。インからスタートし、10、14番とボギーが先行するものの、15、16番のロングで連続バーディーを奪ってパープレーに。後半のインは7番までパープレーを続け、最後の8、9番でボギーを叩いて、結局2オーバー74でフィニッシュした。「2ホールとも3パット。パープレーで回りたかったけど」と本田は悔しい表情を浮かべた。

と言うのも、72でラウンドできる自信があったからだ。半年前からこの大会への出場を決め「出るからには上位」と狙いを定めた。週1回、会場である小郡CC所属の岩村勝希プ

ロと週1回のラウンドレッスンをし、「寄せの勉強になった」と成果を持参して臨んだ。プロとのマンツーマンのレッスンではパープレーで回っていただけに、本人としてはちょっと納得がいかない。

長崎県口之津町（現南島原市）出身。現在は福岡市内に在住し、マンションのオーナーを生業とする。ゴルフは40歳から始め、競技ゴルフにはまったのは20年ほど前から。年間約120ラウンドをこなし、「職業はゴルフ愛好家です」と笑う。今回もエージシュートを達成したが、その回数は「覚えられないくらいほど」という。九州のスーパーシニア界にまた1人、強い「新人」が現れた。

# 2年連続のクイーン

## 74歳で飛距離アップ

5オーバー 77

福井 和子（ブリヂストン）



貫禄の2連覇である。全員がホールアウト後、福井本人は1打リードでの優勝とってい

たようだが、実は早川朋子（太宰府）と同じ77。同スコアの場合は「年長者」との大会規定があり、70歳の早川に対して74歳の福井に凱歌が上がった。「あら、かわいそう」と日本女子シニアを制したこともある九州女子ゴルフ界を代表する名プレイヤーは、自分のことより相手を思いやった。

「辛抱のゴルフでした」と福井が振り返ったように、2位に7打差をつけてのぶっちぎりの優勝を果たした昨年とは異なり、少々つらいラウンドだった。前半のアウトをボギー1個の37で折り返すと、後半のインでは10番から3連続ボギー。15番でもスコアを落とし通算バーディーなしの5ボギーの77。「バーディーがくると楽なんだけど。ゴルフって難しいですね」と手を焼いた。

今年は九州女子シニアにおいて12位タイで並びながら、大会規定のマッチングスコアカード方式で敗れ、全国大会出場は果たせなかった。そんな中でも「ゴルフが好きだし、楽しみながらしている」と柔らかく微笑んだ。今は「なぜだか分からないけど、ボールが飛ぶようになった。何も変わってないのに」と74歳にして飛距離が伸びているという。来年は当たり前だが後期高齢者の75歳になるのだが、増々元気である。



東コースの9番ショート